



課題/問題

現在のロボットは、ハードウェア面では進化しているものの、インテリジェンスが完全ではなく、さまざまな分野において機能性に影響が出ている。こうした不備により次のような問題が発生している。

- **適応性への懸念**
不測の事態や複雑なシナリオに対してうまく対応できず、前例のないダイナミックで不確実な状況では人間の助けを必要とすることが多い。
- **理解が限定的**
良好な視力と高いグリップ技術はあるが、キッチンの整頓などのタスクに対応するのが困難で、現実世界を理解する機能が不足している。
- **無定形態ミッションの処理**
人間の言葉による曖昧なタスクを理解、解釈、計画、実行することが困難。

解決策

- 当社は、大規模言語モデル（LLM）、知識グラフ（KG）、物理世界モデル（PWM）を用いてロボットのインテリジェンスを強化し、ダイナミックプログラミングを行うことで、ロボットをより適応性の高い存在に変えていく。LLMとKGは抽象的なプランニングに対応し、PWMは現実世界でのインタラクションとグラウンディングを可能にする。当社のソリューションにより、人間の介入の有無にかかわらず、ロボットによるマルチミッションが可能になる。

競争優位性

- **オンザフライ方式プログラミング**
ロボットがリアルタイムで自らを動的にプログラムできるようになり、従来の制約（新しいタスクや状況に対応する上で支障となる柔軟性に欠けた「ハードコード化された」命令）がなくなる。
- **階層的思考ネットワーク**
ロボットが複雑なミッションやタスクを抽象的な計画に分解し、高度な推論機能、階層的な計画アルゴリズム、物質界のモデリングを活用して、物理的環境内で効果的に相互作用できるようにする。
- **イメージーションエンジン**
独自のイメージーションエンジンを活用し、潜在的な計画やシナリオを想定し、最適な次の行動を選択することで、ミッションの評価を最適化しながら、ミッションの目的を達成することができる。

希望する協業先/提携先

ロボットとロボットサービスをより豊かなユースケースと機能性を備えたインテリジェントな存在へと高めるため、先進的なロボットベンダーとサービスプロバイダーとの協業を希望している。

- **ベンダーとの提携**
製品強化のためロボットメーカーとのコラボレーションを意欲的に進める。
- **サービスプロバイダーとの提携**
インテリジェントロボットに基づいた高度なソリューションを提供するため、ロボットサービスプロバイダーとの連携を積極的に進める。

今後の事業計画

- 黒字経営を保ちつつ、2024年には収益330万ドルに拡大
- イスラエルと米国における顧客ポートフォリオの拡大
- 24年上半期に日本でのマーケティング活動を拡大し、販売代理店契約を締結
- 24年上半期に日本でロボットベンダーと最初のPoCを実施
- R&Dチームを強化して新規顧客をサポート

イスラエル
ケフェア・サバ

2017
創立年

A
調達ステージ

12
従業員数

INVEST JAPAN

JBRIDGE

 HackOsaka
2nd. Edition

